

第18回「県政ひざづめ談議」概要

開催日時：平成20年1月24日 14：00～

開催場所：大月市 総合福祉センター

[司会]

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。
本日の進行役を務めさせていただきます県の広聴広報課長、田中でございます。
よろしく願いいたします。
それでは最初に横内知事からあいさつをいたします。

[知事]

皆さんこんにちは。山梨県知事の横内正明です。

今日は『ひざづめ談議』ということで、この大月市の児童館で母親クラブの活動に参加しておられるお母さん方と、子育ての問題について色々とお話をさせていただくということにいたしました。

皆さん方は、この児童館で互いに子育て中のお母さん方の仲間として、いろんな活動しておられるというふうに聞いておりまして、まあ皆さん方のそういう活動を今日伺うことを楽しみにしております。

また、聞くところによりますとこの大月市の外から大月市に転入をしてこられた子育て中のお母さん方も積極的にこのクラブに入ってもらって、そういう皆さんとの仲間づくりをするというようなこともやっておられるというふうに聞いておりまして、それは本当に大事なことだなというふうに思っております。

少子化対策というようなことで、色々な施策が市においても県においても行われているわけでありまして、そういういろいろな対策が皆様方、実際子育てをしておられる方々にとってどうなんだろうかと、まあお役人が頭で考えてやっているがために皆さんの目から見ると果たして十分役に立っているかどうか分からない、そんな不安を私も持っているわけですし、是非皆さん方から今日はざっくばらんにいろんなご意見を聞かせていただければありがたいというふうに思っております。

特にあれを言っちゃいけない、これを言っちゃいけないなんていうことは全くありませんので、何か言ったからといってあとで怒られるということは全くありませんから、普段お考えになっていることをざっくばらんにもう何でもいいですから、こんなことを言っちゃ恥ずかしいだとか、こんなことを言っちゃ知事に申し訳ないなとか、そんな心配は全く無用ですから、お考えになっていることをお話いただければありがたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

[司会]

ここで本日出席しております県と市の担当者を紹介させていただきます。

県の少子化対策、それから男女共同参画を担当しております横山理事です。

それから、県の福祉保健部で子育て支援を担当しております宮島児童家庭課長です。

それから大月市の佐藤福祉保健課長です。

本日は大月市内の母親クラブの会員の皆様方と『より良い子育て環境について』をテーマに意見交換を行いたいと思います。地域におきまして人と人との繋がりが希薄化する中で、様々な悩みとか不安を抱えながら子育てをする親が増えていると聞いております。こうした中で安心して子育てをするためにはどうしたらいいか、また何が必要かと、そういうような観点で皆様と参加者全員で話し合いを進めていきたいと思っております、意見を聞きながら気がついたこととか、それから日頃思っていること、どんなことでも結構ですから思うところを自由に活発に議論していただきたいと思います。

本日いただきました皆様のご意見、お考えは今後の県政の参考にさせていただきます。

それではご発言をお願いいたします。

[参加者]

去年の3月に桂川ウェルネスパークを造っていただいて、今まで大きな公園がなかったので、小さい子どもを連れてよく遊びに行くんです。

そこが県じゃなくて民間に渡るかもしれないという話を聞いて、そうなる则何か色々お金を取られたりとか、ちょっと行きづらいなと思ったりしますので、県で何か運営というか、市民が遊びに行きやすくするようなことをちょっと考えてもらえたらなというのと、あと水遊び場が今まだないので・・・。

[知事]

水遊び場ね。子どもさんたちが、まあプールということはないけれども、噴水みたいなものでジャブジャブ池というかな、ああいうようなものですか。

[参加者]

フルーツ公園かどこかにありますよね、ああいう水遊びができる場所があれば、夏場はすごく暑いのでお願いしたいと思っています。

[知事]

民間に渡るなんていうことは全くないです。

ただ指定管理者という制度がありまして、あそこにあるレストランなんかは、確か指定管理者にするんです。

レストランは、一定の条件を付けまして民間の方に自主的に経営してもらおうと、そのほうが役人が経営するよりも能率的なものですから、民間に経営をお任せするということがあるんですが、公園全体を任せるといようなことはないですね。

仮にあったとしても、それは管理を任せらるんであって、そのために今度完全に民間の公園になっちゃってお金を取るという、そんなことはないです。

水遊び場はそうですね、ちょっとそれ調べてみましょうね。

[参加者]

あと公園の遊具もちょっと年齢が高めになっているんですね。6歳から12歳というような遊具が多くて、保護者が付いて見れば遊べるんですけど、もうちょっと低年齢向けの子どもも遊べるようなところも一緒に、どうせ造るならやってもらえたらなど。

あとレストランの話が出たんですけど、売店みたいなものが一箇所あればすごい便利だなと思います。

[知事]

売店って例えばどんなようなもの、飴とかチョコレートとか・・・

[参加者]

パンでもおにぎりでもそうですね、あればすごい便利だと思います。

[知事]

そうですね。それは言うておきましょう。

そういう点を除けばいいですか。便利というか、あると非常にいいという感じですか。

[参加者]

私はすごい毎日のように行っていますけども。

[知事]

そうですね、それは改善はするようにしましょうね。お金がないから全部できるかどうか・・・(笑い)。

[参加者]

私がここに子育てをされていて今一番心配なことは子どもの病院のことなんです。

例を挙げると例えばお正月とか、病院が開いていない時に甲府の救急病院にたまたま行って診てもらおうと、入院先がもちろん向こうのほうの病院になるそうで、そうすると入院してからは親はここから通わなければならないという問題があって、もっと24時間安心して子どもを診てもらえる病院が大月にあったらなということをいつも思っているんです。

そんな時に、小児の救急医療センターが富士吉田市か都留市に建設予定があるという話を聞いたんですね。

色々な問題とか計画があってその二つのどちらかというふうには選択肢があると思うんですけど、私の考えだと富士吉田のほうにはたくさん病院があるということと、富士吉田ですと大月から甲府に行くのも吉田に行くのも同じようなもので、富士吉田にできても余り意味がないかなという、期待がもてないんです。

都留市ぐらいだったらここからも通える距離ですし、何かあった時にすぐに行けるよう

な場所なので、是非都留市のほうに建設をお願いしたいんですけど、選択するのに何か決め手とかあるんですか。

[知事]

決め手はね、まあこれは今お医者さん方が委員会を作りましていろんな議論をしておりますね。

そういう中でどこに造るかということも大きなテーマになっていまして、市長さんとか議員さんとか、そういう人たちはもう私の所に造れ、私の所に造れと、私の所に言ってくるんですよ。

私も困るものですから、やっぱりそれは専門のお医者さんたちが検討をしてくれているわけですから、やっぱりそのお医者さん方が、患者さんのことも含めて一番いい場所を選んでほしいと、こういうふうに出てあるんですね。

というのは、この小児救急センターは甲府のほうの小児科のお医者さんも含めて60人ぐらいのお医者さんに協力してもらって、交替で出てもらわなきゃいけないんですね。

かなり遠くからのお医者さん方に通って来てもらったりしなければいけないものですから、それから看護婦さんももちろんいるし、それから薬剤師さんも30人ぐらいの方々に協力してもらって交替で出てもらわなければなりません。

だからそういう専門の方々がどこが一番いろんな意味で、患者さんのことも含めて便利なのか、それで考えてほしいと、こう出てあります。

だから富士吉田になりますか都留になるか、ちょっとまだ分からないんですね。もちろん都留のほうがいいというお気持ちはよく分かりますけれども、私の今の立場としては、分かりました、じゃあ都留に造りますということは言えないわけなんですね。

それで、小児救急センターというのは一時救急なんですね。ちょっと子どもが悪いという時にぱっと行って見て、まあ夜間、それから休日、実際入院だとか、ちょっと重いものについては救急病院に行かなきゃいけないんですね。

その救急機能というのは都留の病院にもあるし、それから富士吉田にも富士吉田市立病院もあるし、それから河口湖の日赤病院にもあるんですね。そういう所に行く前の、ちょっと何かおかしいなという時に行く所ですよ。だから本格的な病院ということじゃないんですね。本当にお医者さんが一人いて、看護師さんが二人ぐらいいてというような夜間のそういう施設なんですね。

[参加者]

でも大月には、今子どもがすごく熱があるんで診て下さいと夜中の12時に行って診てくれる病院が多分ないんですね。

[知事]

大月にはね。大月市立病院も今もう小児科なくなっちゃったんですかね。

[参加者]

週に何回かはしているそうなんですけど、やっぱり子どもは何曜日に風邪ひくとかとい

うこともないですよ。そういう時にぱっと行ける病院がやっぱり近くにあるのと、富士吉田のような遠くにあるというのでは全く違うと思うんですよ。

[知事]

都留の市立病院にも小児の救急はあるんじゃないんでしょうかね。

[参加者]

私も子どもがちょうど年末年始に風邪をひきまして入院していたんですけれども、最初に都留市立病院に電話した時に、「今日はずの当番ではないからよそに行って下さい」と言われて、その時に紹介していただいたクリニックに電話したら、「お家はどこですか」と言われて、「大月です」と言ったら、「大月の方は大月の中央病院に電話して下さい」と言われて、子どもはもうちょっと具合が悪くて吐いたりして、ぐったりしているのに幾つもとらい回しにされて、それで今度大月中央病院に電話したら、「じゃあ聞いてみます」と言われて、でも返事は「内科の先生しかいらっしゃらないから小児科は診れません」と言われて、じゃあ困ったと思ってもう一度クリニックに電話したら、「じゃあまあ遠いですが来てもいいですよ」と言われて診ていただいたんですけれども、そこに行って小児科の先生がいらっしゃったかという、そうじゃなくて内科の先生が診て下さったんです。

前にも、子どもがやっぱり耳が痛いと言った時にも色々回されて、結局都留の病院の整形外科の先生が耳を診て下さって、でもまあほかの科の先生でも一応診て下さればこちらでも安心なんですけど。

でもやっぱり何度も何度も回されてしまって、「明日の朝まで待てませんか」とか、「うちが救急ではないんでだめです」と言われたり、こっちは痛いと言っているから心配だしなんていうことが度々あって・・・。

[知事]

まあ確かに小児救急病院を都留に置いてもらいたい気持ちはよく分かるんですけれども、これは色々な観点から検討しなければいけませんからですね、都留にあるようになるかもしれませんし、富士吉田になるかもしれません。

まだちょっと今の段階でここへということとは言えないんです。

[参加者]

どのぐらいに。

[知事]

そうですね、まあ20年度、だからこの4月から始まる年度内にはつくることになるでしょうね。おそらく5月とか6月ぐらいの時点でそのお医者さん方がその研究会でこの場所がいいということになるんじゃないでしょうか。

[参加者]

是非じゃあ知事からもよろしくお願いします（笑い）。3人産んでお金をもらっても子どもの不安があればちょっと・・・。

[参加者]

3人ほしい方もいっぱいいるんですよ（笑い）。

[参加者]

医療の問題に関係してくるんですが、大月市では3人産んだら支援が出て、とてもありがたい話なんですけれども、産むところが残念なならない状況です。

今2人いるんですけれども、その2人は八王子で出産をさせていただいているんです。なぜかと言うと、ここからだと富士吉田も甲府もそんなに時間的にはさほど変わりはないんです、そして逆に八王子はどうかといいますと、高速を使って行ってしまうとやはり1時間ぐらいで行ける距離です。

上の子を八王子で産んだんで2人目も八王子で出産を決めたんですけれども、2人目の時に切迫で入院をしてしまいまして、1カ月半ほど入院をした時に3人目をもし作るのならば遠くではとてもじゃないけど、面会にもいけないし、中々上の子に会うこともできないと思いましたが、その矢先に都留病院が残念ながら出産ができないというふうになってしまいました。

お産は残念ながら待ってはくれませんから、救急車で行っても車中で産むこともあると思うんですね。少子化だからこそ子どもをたくさんともし思うのならば、是非産婦人科をつくっていただきたいなという気持ちが非常に強いんですけれども、いかがでしょうか。

[知事]

いや、それは全くそのとおりなんですけど、お医者様が足りな過ぎちゃってどうにもならないですね。困ったことにね。結局その都留病院へも山梨大学医学部から産婦人科医を派遣しているわけですね、3人派遣していたわけなんですけれども、結局山梨大学の医学部にその産婦人科医が残らなくなっちゃったんですね。

これは新しい研修医制度ができたというのが一つの原因なんですけれども、みんな大都市とかそういう所の比較的条件のいい所に行っちゃいまして、山梨大学医学部から派遣をしようとするそのお医者さんがいなくなっちゃったんですね。だから仕方がないから医学部としてみればある程度集約化するしかない。全部に派遣するんじゃなくて、ある所はやめてこっちに持ってくるとか、そうやって集約化するしかないということになって、都留病院からは産婦人科医がいなくなったということなんですね。

これは非常に困って、今まあお医者さんを探しているんですけれども、しかし産婦人科医というのは本当にいませんね。これは本当にどうにもならなくて、正直困っているところです。

[参加者]

産めなくなったのは麻酔科医がいなくてかという話だったんです。

産婦人科の先生がいらっしゃっても麻酔科医が非常勤だとだめだという話で、産むのはだめになったというのを聞いたんですけど。

[知事]

裁判になったことがありましてね。

麻酔科医がいなくて産婦人科のお医者さんが麻酔をしながら分娩をやって、結果的にお母さんが亡くなったんですかね。それが裁判になりまして、訴訟になりましてその産婦人科医が逮捕されたんですね。

それでその産婦人科のお医者さんは麻酔科医がいなくて、裁判になったり、また逮捕されたりしたら大変だと、もうやらないとこういうことになったんですね。

産婦人科のお医者さんというのは昼も夜も交替で出るわけですから一人じゃだめなんで、三人ぐらいセットでいなきゃだめなんです。それに加えて麻酔科のお医者さんがいなければならぬ、こういふことになりますからかなりの人数のお医者さんがいなければ分娩というのはいかぬわけですよ。それがお医者さんが足りなくなってきたもんだから、結局都留からは引き上げると。

そこで、今仕方がない、考えているのは次善の策なんです、都留でも産婦人科のお医者さんはいるわけですよ、分娩はできなくても。だから妊娠をされた方は、そのお医者さんに普通の診察というようなことはかかって、出産する病院は甲府になるか、あるいは吉田になるか分かりませんが、あらかじめ決めておいて、カルテなんか共有にしましてね、いざどうも出産しそうだという時にはそちらのほうに行ってもらおう。

普通の診察は近くの都留病院とか、そういうところでやって、あるいは助産師さんがいるんなら相談に応じてくれるというような体制を取っていくしかないという今状態にあるんですけどね。

[参加者]

いつ産まれるかも本当に分からないものね。

何か甲府か吉田じゃないと住めなくなっちゃいますよね。小児科もない産婦人科もないって、大月市もいい所なのに・・・。

[知事]

困りましたね。まあしかし県も、もちろん市もですけども、産婦人科のお医者さんなんかについてはずいぶん全国的にいろんな所にあたって探しているけれども、まあどうしても今のところじゃちょっと見つからないですね。

それはもう大月とか山梨というんじゃなくてもう東京で産婦人科のお医者さんがいなくなってくる。どんどんね。だから東京の都立病院なんかでもその産婦人科を分娩を停止するということがいくつもできてきているという状態なんですよ。

まあそういうことで大変にこれは深刻な事態で申し訳ないんですけども、私たちがその点だけはよく分かっておりますからできるだけことはするように努力したいと思いま

す。

[参加者]

昨日たまたまテレビを見ていたら、2、3歳の男の子が池に落ちて、もう死と同じ状態になっていたんですが、ドクターヘリで運ばれて一命を取り止めたというニュースを見ました。

そのドクターヘリを対応している県が日本全国でもすごい少なくて、東京、神奈川、静岡、長野など周りの県はほとんどそういうのをやっているみたいなんですけど、山梨県だけなかったので今後どういうふうに山梨県としては対応されるのか、大月でもドクターヘリが入ってきていたりすることはあるらしいんですけども、そういうことをお聞きしたいんですけども。

[知事]

ドクターヘリは、端的に言うとまあお金が非常に掛かるんですね。常時お医者さんを何人か置いておかなければいかんということもあって、東海大が神奈川県相模原からこの辺りもカバーしているっていう状況なんですね。

[参加者]

私は七保町下和田に住んでいます。

私が住んでいる地域のことをちょっとお話するんですけど、とても地域の結束力が強いんですね。お祭りとかもしっかり残っていたり、あと地域のやっぱり繋がりが強いんで、子どももおじいちゃん、おばあちゃんも、おじさんも、おばさんも、みんな顔見知りで過ごしているんですね。

うちは上の子が小学生なんですけど、小学生になるともうほとんどが地域で過ごすことが多くて、外で遊ばせたりすることも多いんですけども、おじさん、おばさんたちが顔見知りで、いつでも見ていてくれるというのがあってすごい安心して外で自由に遊ばせることができますし、とても地域としては子育てしやすい地域なんですね。

だけど大月は今、学校の統廃合があって、下和田地区の学校もなくなる予定でいるんですね。そういう学校が中心となってその地域を活性化してきたところが、学校がなくなって、例えば維持管理が大変とって民間とかに売ったりすることがあると、その場所がもう子どもたちが遊べないという場所になってしまいますし、おじさん、おばさんもそこに集まれない、そうすると地域が健康じゃなくなっちゃうというか、今せつかくうまく老人と若い人と小さい子がうまくコミュニケーションを取りながらすごいいい地域ができているのに、多分そういう地域のよさというのはなくなってってしまうんじゃないかなという心配があるんですね。

私自身は統廃合はしょうがないことだなと思って、それについてはそんなに反対はしていないんですけど、跡地利用に関して地域の場所として使えるという部分を、そこはお金が掛かるかもしれませんが、やっぱり子どもを育てていくために投資して、そうい

う場所を使えるようにするという必要があると思います。

[知事]

廃校を有効に利用する、地域のために利用するということですね。

[参加者]

登山客の方がよく来られるんですけど、その方が下和田の子どもたちは登山客の人にもあいさつして、すごくいい地域ですねというふうに褒められるんですね。だからよく育っている。

[知事]

これおじいさん、おばあさんが面倒見てくれるといいですよ、周りの……。そうですか。それは大月市長によく言っておきましょう。

[参加者]

よく言っておいて下さい。(笑い) お願いします。

[参加者]

乳幼児の医療費助成制度についてなんですけど、私は去年東京のほうから引っ越してきたんですけど、今までは東京都の場合は窓口負担金が0円だったんですね。

お金を持っていかなくても乳幼児医療証だけ持っていけば診てもらえたんですけど、こちらに来たらそうじゃなくて、自分で自費、とりあえず3割だったかな、2割負担の分だけは払って、あとで大月市のほうに請求書を書いて請求するという形だったので、ちょっとその手間が2カ月分まとめて次の翌月するんですけど、それも市役所の開いている時間とかでないといけないし、働いている人とかは多分今も結構大変なんじゃないかなと思ってるんですけど、それはどうにか、窓口負担0というふうにはできないでしょうか。

[知事]

今年の4月1日からですね、窓口無料化するんです。

[児童家庭課長]

今年の4月1日からのものは乳幼児医療費が窓口無料化になります、国民健康保険も社会保険も原則山梨県内のどこの病院にかかろうと無料化になります。

[知事]

いかがですか。引き続きやっぱり医療の問題が一番心配ですかね。

[参加者]

それはもう。

[知事]

いずれにしても公立病院というのは全部が全部存続できにくいんですよ、お医者さんが足りなくなっているものですから。

例えば大月なんかもかつてはかなりお医者さんがいましたけれど、今はぐーっと少なくなっちゃったでしょう。上野原の病院もそうなっちゃいましたからね。

結局医者が足りなくなっている中で、公立病院を従来のように存続できないものですから集約化していくしかないですね。集約化したりネットワーク化していくしかないですね。

20年度に東部地域でどういうふうにしていくのか、そういう議論をするんですけどね。まあそういう中で、大月、上野原、都留、この辺りの医療をどうするのかということを考えていかなければいけないです。

[参加者]

私たち幼稚園の子ども、お友達なんですけれども、やっぱり病院がなくて亡くなられちゃったんです。

聞いた話だと、かかりつけの病院に行ったらもうちょっと間に合わないから大月のほうに行ってくれてと言われて。そして大月のほうに電話をしたら、大月も今小児科の先生がいないので困ると言われて都留市に行ったんだけど、都留市でももうどうにもならないと言われて、甲府の病院に行ったんだけど、もう診察台に上がったら息を引き取っていて、同じ子どもを持つ親としては、そういうことが多過ぎて、医療の格差をすごく感じているので、是非救急医療センターがそちらに百歩譲って行ったとしても、こっちの本当に医療、小児科の先生がしっかり診てくれればそれでも私たちは安心すると思うので、そういうところを本当に考えてもらいたいです。

[知事]

うん、よく分かりますね。分かりました。

[参加者]

私も山梨県出身じゃなく大阪からお嫁に来たんですけど、児童館母親クラブには結構そういう方もいっぱいいらっしゃって、子育ての悩みとかをみんなで話せるように仲間をつくって、そして、児童館に一人で来られるお母さんとかにもちょっと声を掛けたりとか、福祉センターのバザーとかに参加したり、まだできてそんなに年数がたっていないので、そんなに広い活動はしていないですけど、そういう感じでやっています。

[知事]

週に何回かは集まったりしておられるんですか。

[参加者]

一応地域ごとに班を作っていて、例えば今月はこの班が何かを企画して下さいという感じで、例えば冬にはクリスマス会だとか、ハローウィンパーティーだとか、水遊びだとかというのを、それぞれみんながみんな企画するという感じで、自分たちの好きなことを取り入れながら、時にはお母さんたちだけでリラックスできるような、そういう集まりをしたり。それには児童館の先生や保育サポーターさんの手助けをしていただいて、お母さんたちだけが集まる時は子どもを預けて見ていただいてという感じでやっています。

[知事]

そうですか。

ファミリーサポートセンターはあるんですか。

[参加者]

あります。

私はサポーターのほうもしてまして、預けることもするし、子どもを預かったりということもしているんですけど、大月市で本当に仕事をしていて、どうしても見てもらえないという方は1時間750円で預けているんですけど、若い方ですと、私ももちろんそうなんですけど子どもを1時間750円出して預ける、そんなお金がないという人が多くて、去年一応もし市だとかのほうで少し補助をしてくれればなんていうことをお願いしてあったんですけど何も・・・。

[知事]

1時間750円というのはちょっと高いですね。簡単に使えるというものでもないようなところが。まあよほど必要な時にはやむを得んでしょうけどね。しかしこれ全体的にそうですかね。

[児童家庭課長]

大体そのようなものですね。

ただ市によっては補助している所もないことはないんですね。

[参加者]

詳しいことは私も分からないんですけど、都留のほうでは1カ月に1度だけ子どもを預けられるシステムがあるというのをちらっと聞いたんですね。それはこういった形で成り立っているのかちょっと分からないんですけども、例え1時間でもお金が掛かるから預けられない。でももしお金が掛からないという形で預けることができるのなら、その1時間預けたことによってすごく母親が自由な時間を持てる。

もちろん、預けた分、逆に子どもに、あぁいい子でいたねって、その後の愛情の掛け方というのがすごく違うというふうに思います。

サポートセンターの存在自体を初めて知った時に、そのおじいちゃん、おばあちゃんからのいろんな知恵をいただき、そして今核家族が進んでいますから、それプラス子どもたちもそういったサポーターさんに見てもらって、そして子どもたち自身もおじいちゃん、おばあちゃんを知るというのはすごくいいことだと実感できたので、もちろん保育のサポートもそうですが、こういった活動をしているということを通して是非外から入ってきた人にも知ってもらえたらなというふうに、すごく私自身が実感しているので、補助の関係でもあると思うんですが、子育てをするママの気持ちというのを少しでも汲んでいただけたらなというふうに思います。

[参加者]

私の主人のお父さん、お母さんは図書館の隣の県営団地に住んでいるんですね。その近くに、すべり台と砂場とブランコと鉄棒がある公園があってすごい寂れているんです。この公園大丈夫かなとか思って・・・

[参加者]

ちょっと前に遊具の事故とかそういうニュースがあったじゃないですか、これちゃんと調べているのかなとか、このブランコって落ちないかなとか、この砂場きれいなのかなとか、何かもうちょっとそういうところもチェックしたほうがいいんじゃないかなと思って。

ほかにも寂れた公園みたいな、ここ何公園？とかと思うようなところが結構あったりするんで、そういうものをちゃんとチェックしたほうがいいんじゃないかなとかちょっと思ったりします。

[知事]

確かにそれはそうですよね。いったん事故が起これば大変ですからね。

[参加者]

起こってからじゃもうどうにもできないので、やっぱりそういうところはちゃんと見てほしいと思って・・・

[知事]

今子どもさんが少なくなってきて、そういう児童公園みたいなものは余り使われないものだから、ついつい管理が行き届かない場合があるかもしれませんね。

県営の駒橋団地ですね。県の公営住宅の中の公園だと思いますからね。よくそれ調べさせてみましょうね。

[参加者]

下和田地域のことなんですけれど、今結構物騒な時代というか、2、3年前に私の家の近くにも空き巣に入られてということがあったんですけど、小学校に通うにしても中学校に子どもが通うにしても街灯がすごく少なくて、とても暗いところを帰ってこなくっちゃいけないような状態なんですよ、今。

それで歩いて帰ってくる子どもたちのために今帰りの時間とかを見計らって大人が見回るパトロールもあるんですけど、中学生とかになるとやっぱり帰りが遅くなったり、部活動とかをして遅くなったりするので、その点でやっぱり暗い道を帰ってくるのは可哀想かなというのを今すごく思っているんですよ。

中学になると今度は猿橋中学校に通わなくてはいけないんですよ。そうすると今度、まあスクールバスがないので歩いて通わなくちゃならないんです。

行く時は坂道でいいんですけど、ずっと帰りは上りなんですよ。帰りはもう本当に暗い道を帰ってこなくっちゃいけないんですね。車で何度も行き来しているお母さんたちを見たりすると、やっぱりその辺は心配で迎えに行っているんだろうなというのは感じているんですけど。

[知事]

何か工夫ができんものでしょうかね。何人かで分担をして友達を迎えに行るとか、まあスクールバスというのもあるかもしれないけども、だからやっぱり子どもさんがそんなに多くないんでしょうね。だからスクールバスが回るまでいかないということなんですか。

[参加者]

中学生の場合は歩ける範囲内ということなんだろうね、きっと。

[司会]

それでは、知事さんから締めのご感想とまとめをお願いいたします。

[知事]

まあ色々なお話が出て、公園の問題とかそういうことは早速担当のところでは検討させてくれることはやりますけれども、そういうことは比較的簡単なんですけど、小児科、産婦人科の医療の問題というのは本当に難しい問題で、私たちも正直言って私も一番頭が痛いんですよ。本当に困っちゃっているんですけどね。

結局山梨の病院というのは山梨大学の医学部から派遣されている場合が多いものですが、山梨大学の医学部の先生なんかにも盛んに何とかしてくれってことをせっつくんですけど、向こうは向こうで聞いてみると全然足りなくなっちゃってどうしようもないと。

かつては山梨大学の医学部を卒業して研修医という、研修のお医者さんになるんですが、医学部に60人ぐらい毎年残ったんですが、最近は30人ぐらいしか残らなくなっちゃって、それでももう足りなくなっちゃっているものだから仕方がないから引き上げたり、ある

いは一部のところに集めたりせざるを得なくなっているんですね。

まあしかし困った困ただけじゃ済みませんから、何か対策を取ろうと思っております。期待して下さいとか、何かそこまでの自信がないですけども、できるだけことはやりたいというふうに思っています。

改めて今日大月のお母さん方から切実なお話を聞いて、まあこれは何とかしなければいけないという思いを強くしております。大月の市長さんもこのことを本当に頭を痛めておられて、よく私のところに来ては何とかならんもんかということをおっしゃるんです。

まあ何にしてもお金を掛ければ済む話でもないんですよ、お医者さんというのは。確かにそれは一人1億円ぐらい払って呼んでくればそれはまあ来るのかもしれませんがけれども、中々やっぱりそうも行かないところがありまして、しかし何とか皆さん方のそういうご意見に沿えるように一生懸命努力をしたいと思っております。

そういうことでまとまらない話で誠に申し訳ないんですけども、皆さん方には本当に子育てをしながら、そしてお互いに助け合いながらサポートしあいながら子育てをしていただいているということで、是非これからもがんばって、特に今お話を聞くところによりますと割と県外とか、外からおいでになった方が多いようですから、そういう方が大勢おられて、こうやってこういうグループにおいでになる方々はいいいですけども、中にはちょっと引っ込み思案な方とか、そういう人たちというのは出てこれないんですよ。出てくればいいんですけど、出て来れない方が大勢いるんですよ。そういう人たちを是非発掘して、こういう仲間引っ張り込むような努力を是非していただければなというふうに思いますね。

そういうことでまとまりませんが、今日はありがとうございました。